

Uni-Voice

この広報誌は音声コード Uni-Voice を使用しています。スマートフォン等の専用アプリを使用することで視覚に障害のある方でも、ページの内容を音声で確認することができます。

センターだより

新所長着任のご挨拶

本年4月1日付けで、神戸視力障害センターの所長として着任いたしました加藤晴喜と申します。このセンターでの勤務は、阪神淡路大震災の翌年度以来、28年ぶり2度目となります。

久しぶりのセンターは、建物自体は地域交流棟の増設や経年劣化など、多少の変化はあるものの、大きな違和感を覚えるほどのものではありませんでしたが、利用者数が大幅に減少し、様々な行事やイベントの実施が難しくなるなど、少々寂しさを感じざるを得ない状況となっております。

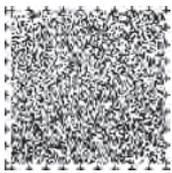
障害のある人を取り巻く環境も、障害福祉施策の大きな変化や ICT 技術の発展などとともに変化し、それぞれが希望する生活イメージも大きく変容していることなども、センター利用者の減少の大きな要因の一つとなっているものと考えており、センターとしても、それらの社会情勢に即した対応が求められているものと思っております。

また、令和6年度の障害福祉サービスの報酬改定において、支援の質の確保の観点からも、より地域に開かれた施設運営を求める改正も行われたところです。当センターとしても、今まで以上にこの地域に根ざした施設として、より地域との連携の深化に努めてまいりたいと思っております。

これからも地域の皆様から必要とされる施設となれるよう、職員一同、一層努力して参りたいと思っておりますので、皆様からのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

もくじ

- | | | |
|-------------------------|--------------|------------------|
| P2 就労移行支援(養成施設)の新規利用者の声 | P3 給食の紹介 | P5 トレーニング室における支援 |
| P2 国家試験の結果および進路状況 | P4 障害者スポーツ大会 | P5 基本理念と基本方針 |
| P3 臨床研修講座 | P4 出前講座について | P6 利用者募集 |



Uni-Voice



就労移行支援（養成施設）の

新規利用者からの声



👤 Aさん

今年で45歳になります。実に23年振りに学生になりました。視力の方は遺伝性黄斑変性という病気で、幸いにも日常生活を送れるくらいは残っています。少し私の紹介をさせていただくと、生まれは神戸市長田区で、今は三木市に住んでおり、この4月から入所しています。これまで色々な仕事をしてきましたが、仕事となるとやはり支障があって、業種も限られていました。ですが、私に関しては理解ある人達に恵まれてここまでやってこれたと思います。今後資格を取っていずれ開業できたらと思っています。



👤 Bさん

入所式から早くも数ヶ月が経過し、新しい環境での生活、学習にも慣れ、3年後の国家試験に向けての道筋が少しずつ見えてきました。昨年の秋、会社を定年退職し人生の一区切りを迎えましたが、



長年携わったIT・通信業界とは全く異なる分野で学び、国家資格取得を目指すことを選択しました。IT機器やAI技術の発展に伴い、視覚障がい者が就労、活躍出来る分野も拡がりつつあり期待していますが、AIにはできない、人にしかできない、人が人に施す技術もずっと必要とされるものと考えます。神戸センターの先生方、職員の皆様のお力をお借りしながら、楽しく、精いっぱい学んでいきたいと思っています。

国家試験の結果および進路状況について

(1) 第32回あはき国家試験結果について

令和6年2月24日(土)、25日(日)に第32回あん摩・マッサージ・指圧師国家試験、はり師・きゅう師国家試験が当センターで実施されました。当センターの現役受験者の結果は次のとおりです。

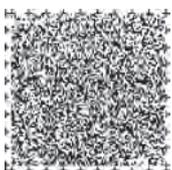
あま指師は受験者2名、合格者2名、合格率	100%
はり師は受験者2名、合格者1名、合格率	50%
きゅう師は受験者2名、合格者1名、合格率	50%



(2) 進路状況について

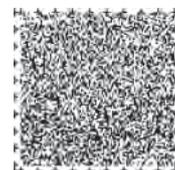
令和5年度の卒業生2名の就職先は、ヘルスキーパー1名、訪問マッサージ1名です。皆様おめでとうございます。

当センターで学んだことを基に、患者様お一人お一人を大切にする理療師へと成長していきましょう。



Uni-Voice

臨床研修講座を開催しました！



Uni-Voice

当センターでは、7月25日（木）に第1回臨床研修講座、26日（金）に第2回臨床研修講座を実施しました。第1回臨床研修講座では森ノ宮医療大学の尾崎朋文先生をお招きして「鍼施術の医療過誤およびその対策について」と題しまして、講演と実技を行いました。私たちが患者様へ施術をする際に気を付けなければならないこと、人体を解剖学的に理解しておくことの重要性などをご講演いただきました。第2回臨床研修講座では、SR 鍼灸グループの伊佐治景悠先生をお招きし、「不妊鍼灸の基礎と臨床」と題しまして、講演と実技を行いました。現代の日本で不妊治療という言葉をよく聞くようになりましたが、その分野に鍼灸がどのように介入していくのか、また、施術する立場としてどのような知識と技術が必要なのかということについてご講演いただきました。



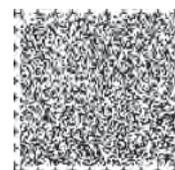
どちらの講座も、利用者の今まで学んできた授業の延長線上にある内容です。今は授業や試験が大変かもしれませんが、いつか施術する側に回ったときに活かせるように、受講した皆様が真剣に聞いている姿が印象的でした。

就労移行支援（養成施設）では、利用者の皆様に向けた講座を様々に実施しています。ご興味のある方は、ぜひ一度ご相談ください。皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

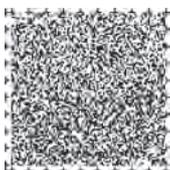
給食のご紹介！



当センターの給食について、栄養士から紹介させていただきます。当センターでは、レトルトなどの加工食品は極力使わないよう献立に気を配っています。また、1日の食事において野菜は350g以上の摂取が望ましいとされていますが、それ以上で提供しており、できるだけ冷凍を使わず、国産野菜を仕入れて調理しています。他にも、肉類は全て国産で、特に牛肉は和牛の熟成肉を使用しております。お魚はできるだけ生魚を半身で納品してもらい、ドリップが出ないように料理の直前に切り分けるようにしています。豆腐や油揚げは地元の豆腐店に発注した手作り品であり、スーパーのものとうまみが違いおいしさも抜群です。ヤカンで提供しているお茶ですが、これはセンター近くのお茶の専門店で購入した粉茶で、寿司屋のアガリと同じであり、利用者の皆さんからご好評いただいております。味噌汁やすまし汁の出汁は、サバや鰹の粉から取っています。化学調味料は一切使っておりません。関西は出汁が重要視される傾向にあるため、とても気を遣って調理しています。以上の通り、できるだけ地産地消を心がけ、国産食材を使用した上で、調理経験数十年のベテランの調理師が調理を行っています。当センターの給食については、喫食時間が決まっていることや、一定の費用負担が必要ですが、栄養士が献立を作成し、資格を持った調理師の技術で調理し、安全度が高い国産食材を使用したものを、暖かい状態で食べられるメリットがあります。買い物、料理、片付けの時間を勉強の時間に置き換えることもできるため、健康、QOLの向上に繋がります。



Uni-Voice



Uni-Voice

障害者スポーツ大会に参加しました！

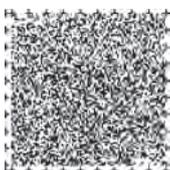
令和6年5月26日（日）、6月9日（日）に、第63回神戸市障害者スポーツ大会が開催されました。昨年に引き続き、当センターの利用者1名の方が参加されました。両日とも王子スタジアムが会場であり、1日目はフライングディスク、2日目は陸上競技（1500M）にエントリーしました。1日目のフライングディスクは、「アキュラシー」という、フラフープの輪の中にディスクを通して正確性を競う競技になります。太陽が照り付ける中で、真剣な眼差しでディスクを投げる、参加者の方々の姿が印象的でした。2日目の陸上競技（1500M）については、朝から雨が降っていたため、大会が開催されるのか危ぶまれましたが、無事に大会が開催されてほっとしました。参加された利用者の方に感想を伺ったところ、「昨年に引き続き、大会に参加することができて良かった。そして何より、1500Mでメダルを貰えたことが、嬉しかった。」との言葉が聞かれました。大会への参加を通じて、スポーツの楽しさを感じられるとともに、有意義な時間を共有することができました。



出前講座について

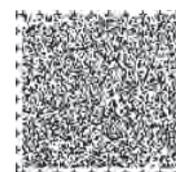
当センターでは、視覚障害者を支援する方々等に向けた講習を出前講座で行っています。内容は視覚障害の理解、視覚障害者への接遇やアイマスクをしての手引き体験など、支援の場面で役立ててもらえることを目的とした内容です。今後は、スマートフォンやタブレット端末の画面読み上げ機能の操作が可能な支援者養成に向けた講習会も予定しています。その他に、小中学校に向けた福祉学習の講義もしており、昨年度は加東市の小中学校から2件ご依頼があり対応させていただきました。出前講座や福祉学習

についてご相談がありましたら、支援課までお問い合わせください。



Uni-Voice

トレーニング室における支援について



Uni-Voice

当センターにはトレーニング室があり、筋トレマシンが7台、エアロビクスマシンが2台、乗馬型と振動型のマシンが各2台設置されています。また、物理療法室を兼ねているため、平行棒など物理療法器材もあります。利用者は授業や訓練以外にも、平日の放課後にトレーニング室を使用することができます。また、グラウンドの周りには1周 300 mの手すり付きウォーキングコースがあり、視機能の低い方でも白杖をもちずに屋外でウォーキングやジョギングを楽しむことができます。現在、当センターの就労移行支援利用者のうち、8割以上の方がストレッチやウォーキングなど定期的な運動習慣があり、その中でトレーニング室・ウォーキングコースを利用している方も多くいます。また、自立訓練では、視機能の低下とともに運動から遠ざかっていたけれど、トレーニング室の使用がきっかけとなり、再び運動習慣を獲得した方もいます。その他にも体育館、卓球室、クライミングウォールなどのスポーツ施設があり、利用者の健康と生活の充実のため利用されています。



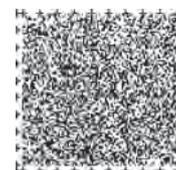
当センターの基本理念と基本方針

基本理念

- 1 私たちは、利用者の基本的人権を享有する個人としての尊厳にふさわしいサービスを提供します。
- 2 私たちは、利用者が社会の一員として、あらゆる活動に参加できるよう支援します。

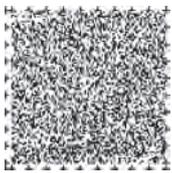
基本方針

障害者基本法、社会福祉法の基本理念に基づき、障害者総合支援法に規定される障害者が基本的人権を享有する個人としての尊厳にふさわしい日常生活又は社会生活を営むことができるよう、必要な障害福祉サービスに係る支援を行い、もって障害者の福祉の増進を図るとともに、障害の有無にかかわらず誰もが相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことの出来る地域社会の実現に寄与することを目指します。



Uni-Voice

利用者募集



Uni-Voice

視覚に障害のある方を対象として、就労移行支援（養成施設）、自立訓練（機能訓練）のサービスを提供しています。

就労移行支援（養成施設）は3年制で、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の国家資格取得のための職業訓練を行います。資格取得後の進路は、高齢者施設や一般企業のヘルスキーパー（企業内理療師）等への就職、治療院の開業、進学等です。

自立訓練（機能訓練）では、歩行、パソコン、タブレット端末、録音再生機器、視覚的補助具（ルーペ、単眼鏡、拡大読書器、遮光レンズ）、日常生活に関する訓練（例：調理）等を行います。訓練を終了された方の中には、当センターの就労移行支援（養成施設）に進む方もいます。

利用を希望される方は、まず当センターにご相談ください。来所による相談や見学も受け付けています。なお、利用申込に必要な書類は当センターから取り寄せていただくか、ホームページからも印刷できます。利用に関する相談以外に、生活に役立つ道具のご紹介、他の施設やサービス等のご案内もいたしますので、お気軽にご連絡ください。

就労移行支援（養成施設）

対象

視覚に障害のある方で、施設利用について市区町村から「障害福祉サービス受給者証」の交付を受けた、次の①または②に該当する18歳以上の方。

①学校教育法第90条第1項の大学に入学することができる方。

②当センターが実施する「個別利用資格審査」によって、高等学校を卒業した者に準ずる学力があると認められた方

募集人員

20名（あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科専門課程）

利用開始

令和7年4月上旬

利用期間

3年間

利用方法

通所またはセンター内宿舎利用（宿舎は休日も利用可）

受付期間

申込受付中（令和7年2月6日（木）締切）

自立訓練（機能訓練）

対象

視覚に障害のある方で、施設利用について市区町村から「障害福祉サービス受給者証」の交付を受けた方

定員

10名

訓練内容

歩行 パソコン 点字 ロービジョン 日常 調理 スポーツ 陶芸 レクリエーションなど

利用期間

個人に応じる

利用方法

通所またはセンター内宿舎利用、訪問訓練（※応相談）

備考

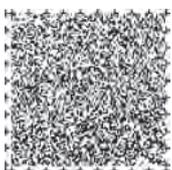
利用申込みや利用開始時期は随時

センター見学のご案内

当センターでは、随時見学を受け入れております。（休日も対応可能な場合があります。（応相談））「センターの利用を考えたいけど不安」というご本人やそのご家族、「紹介したいけど、よく分からない」というお知り合いの方や福祉関係者の皆様など、授業や訓練の様子、宿舎など、見学できます。お気軽にお越しください。

見学が可能な時間 原則として平日9時30分～16時30分まで（要予約）

また、職員を講師とした講習会等の出前講座も実施しています。事前にご相談ください。



Uni-Voice

連絡先

神戸視力障害センター 支援課

電話 (078) 923-4670 FAX (078) 928-4122

ホームページ : <http://www.rehab.go.jp/kobe/> E-mail : soudan-kobe@mhlw.go.jp